

ホット・ハンドむろらん



患者図書室のボランティアスタッフに、手作りの「手提げバッグ」を手渡す久保代表(右)

今度は手作りバッグ寄贈

室蘭市知別町の製鉄記念室蘭病院松木高雪病院長の患者図書室「はあと」に手作りの「手提げバッグ」が登場した。抗がん剤治療の患者用手縫いタオル帽子を製作・寄贈活動を行っている室蘭の団体「ホット・ハンドむろらん」(久保いづみ代表)から贈られた。「心温まる」取り組みに感謝の声が寄せられている。(松岡秀宜)

手提げバッグは、厚手の藍色の布地で作られた20個。A4サイズの書籍も収まる大きさ。「点滴スタンドを押しながら(院内を)移動するため本を入れるバッグがほしい」「本をそのまま持つと自分の病気を他人に知られてしまう」など患者の悩みも解消した。

同病院では、入院や通院患者らのアメニティー(快適さ)向上などを目的に昨年10月、がん診療センター新設に伴って同センター2階に患者図書室を開設。現在は医療や福祉、健康関連などの書籍約170冊をそろえて貸し出している。

同病院によると、患者図書室で本を借りる患者から「特に、がんなどの病気や治療に関する本を借りる人から『持ち運びする時に表紙を隠せる袋がほしい』などの要望が多数寄せられていた」という。状況を知った同団体が協力し、久保代表らメンバーが手提げバッグを作った。

久保代表は「患者さんは治療に関する本を読むことで安心したい面もあると思います。有効に使ってもらえれば」と話す。また、同病院は「本を借りる患者さんのプライバシーの観点からも心遣いをいたさました。大事に使います」と感謝していた。

製鉄記念病院の患者図書室に